図書館郷土資料室 郷土資料

て決壊し、すぐさま改修工事が行われ

一八一二)も七月九日の大雨によっ

完成後にこの絵図が作成されました。

武士が各組ごと分担して改修

な改修工事が行われました。文化九年

121―6111内線620

四拾四間」、 等と工事を担当した家臣団の名前と分 チと大きく、鮮やかに彩色された美し 防の工事は 担距離が記されています。こうした堤 かれ、その下には「侍組高家衆・長サ い絵図です。改修された石堤は赤で描 武士がお金を出し人足を雇う場合も 武士)の手によって行われました 絵図は縦八〇センチ、 「馬廻組・長サ三十九間 「御手伝」と称し、 横一七九セン 家臣

した。 八日には前藩主の上杉鷹山が見学しま 人を数え、九月二十六日に完成、二十 武士の延べ動員数は約一万二〇〇〇

直 文化九年の改修を描い 江 石 堤 改 修 の 絵 た絵 図 図

除は と と で、 エ るため直江兼続が築いたとされる重要この堤防は、米沢城下を洪水から守 谷地河原堤防と呼ばれていました。 関で、正式名称は「谷地河原御手伝川 ※も新わらおてったいかゎ 立米沢図書館の「林泉文庫」の中の絵 な堤防ですが、 修工事を描いた絵図を紹介します。 [は洪水で決壊した直江石堤の改 」です。 豪雨で決壊することも 直江石堤のある堤防は 市

鷹山 感謝のエピソー ĸ

躊躇されると、まず手で石堤に触れ感臣の手で積まれた石堤を足で踏むのは 謝を示し、その後登ったと伝えられま 開墾した田畑を見学した際に鷹山自ら す。武士の手伝いで完成した橋を渡る 際に馬から下りて渡った話や、 完成した石堤を見学した鷹山は、家 家臣が

あることを教えてくれる大切な資料と

いえます。

寛政十年(一七九八)には大規模

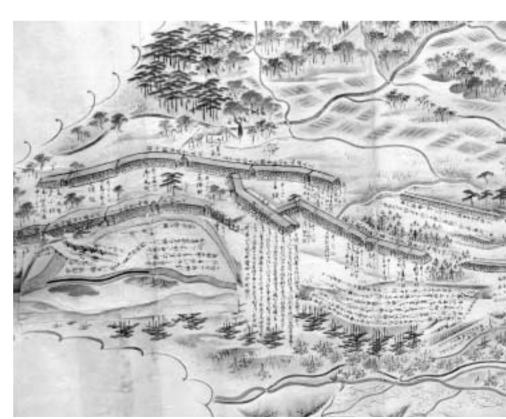
寛永八年 (一六三一)、同十七

山が家臣の働きに心から誠意を示した 家臣に酒を注いだ話と共に、 ソードの一つです。 鷹山の謙譲・謙遜の心を示すエピ いかに鷹

に、先人が治水に力を注ぎ今の米沢が 変遷を記した貴重な資料であると共 (市指定史跡

この絵図は直江石堤

林泉文庫とは 郷土の歴史家として有名な伊 佐早謙が集めた書籍・資料 群。林泉寺町の自宅書庫の蔵 書を収め、町名に因んで「林 泉文庫」と称した。図書館で は706点、1322冊を所蔵。「邑 鑑」「管見談」「養蚕手引」「黒井 堰絵図」等など、米沢の歴史 を調べる上で大変貴重な資料 を多く含む。



▲谷地河原御手伝川除絵図(部分)

石堤は場所によっては二重、三重に築かれた。その高さは約5尺 (約1.5メートル)。石堤の上部(西側)には、御普請小屋も描かれて いる。絵図の作者は岩瀬三左衛門。岩瀬家は代々米沢藩の御用絵師 を勤めた。